

地球温暖化対策 - 脱炭素社会の実現に向けて - Vol.6

森林の二酸化炭素吸収について

木は、大気中の二酸化炭素(CO₂)を取り込みながら、幹や枝を成長させていきます。若い木ほど、多くのCO₂を吸収して固定していきませんが、高齢木になるほど、成長速度が緩やかになるので吸収量は少なくなります。また、木が枯れると、朽ちて分解される過程で、それまで蓄えてきたCO₂を再び大気中へ放出します。分解過程では、二酸化炭素よりもはるかに温室効果の大きいメタンを放出する場合があります。

森林内では、台風や枯死による倒木により、日の差し込む空間(ギャップ)が生じたとき、再びそこから幼木が成長していきますので、CO₂吸収の少ない高齢木や倒木を多く含む原生林のような森林であっても、CO₂の吸収・固定の役割を果たしています。

森林の面積が減ることは、地球上でCO₂を蓄える土地の面積が減ることになりますが、森林を伐採しても植林をおこなえば、再びCO₂の吸収源となります。森林減少などに伴う温室効果ガスの排出量は、世界全体の排出量の約2割を占めると言われていますので、森林保全は、地球温暖化対策の重要な取組の1つとなります。

薪ストーブによる地球温暖化対策

国内では、年々、薪ストーブの使用が増えています。薪を燃やすとCO₂が発生しますが、なぜ、薪ストーブの普及が地球温暖化の抑制につながるのでしょうか。

石油や石炭などの化石燃料を燃やすことは、長い地球の歴史の中で地下に封じ込められていた炭素をCO₂として大気中に放出することになりますが、木は、もともと大気中にあったCO₂を幹の中に蓄え、いずれは枯死により、蓄えていたCO₂が大気中に帰っていくものなので、木を燃やしても、森林の面積が減少していなければ、大気中のCO₂が増加することはありません。このため、薪ストーブの燃料となる薪は、石油などの化石燃料と異なり、再生可能な資源ということになります。

新築やリフォームをお考えの人は、ぜひ、薪ストーブの設置を検討してみませんか。

木質バイオマス燃料燃焼機器設置補助

村では、地球温暖化対策の一環として、化石燃料の代替となる木質バイオマスの普及を積極的に支援し、低炭素社会の構築に関する村民意識の高揚を図るため、村内に居住または転入しようとする人で、木質バイオマスを燃料とする燃焼機器(薪ストーブなど)を設置する場合に、10万円を上限とし、補助対象経費の2分の1に相当する額の補助金を交付しています。補助の対象となる薪ストーブなどについては、二次燃焼以上のシステムを有していることなどの要件があります。詳しくはホームページでご確認いただくか、お問い合わせください。

※薪ストーブは、適切に設置、使用し、火災や有毒ガスなどに対する安全対策を徹底しましょう。

身近なCO₂排出量と森林のCO₂吸収量
(林野庁広報資料)



環境省水・大気環境局大気環境課 発行
木質バイオマスストーブ環境ガイドブックより引用



村HP